



## 「目に見える証」として警鐘を鳴らし続ける 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館

さる一月十三日、気仙沼市階上地区にある「気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館」を訪れた。同館は、東日本大震災の津波により被災した気仙沼向洋高校の旧校舎を震災遺構として保存・活用するとともに、新たに建設された震災伝承館が隣接する施設で、震災の記憶と教訓の伝承と防災・減災教育の拠点として、一昨年三月一〇日に開館した。

東日本大震災による津波とその後の大規模な火災により、気仙沼市は死者一五二名（災害関連死を含む）、行方不明者二四名の甚大な被害に見舞われた。その中でも階上地区は特に津波被害の大きかった地区で、南端に位置する杉ノ下地区では、指定避難場所になっていた高台まで津波が押し寄せ、避難してきた住民およそ六〇名が犠牲になる悲劇も起きた。現在、同館の周辺は災害危険区域に指定され、かつてそこにあつた街は一面更地となり、海岸には九・八mの防潮堤が連なっている。

◆ ◆ ◆  
崩壊を免れた「気仙沼向洋高校」と記された門柱だけが残る正門を抜け、校内に入ると、南校舎の四階角のコンクリート壁が大きく削られているのが見える。建物ごと流されてきた冷凍工

場が直撃した跡だ。そして外観に配慮してか、南校舎の陰に隠れるように黒を基調とした震災伝承館があり、ここから見学ルートがスタートする。来館者は入口で新型コロナウイルス対策のため手指消毒と検温をして、まず気仙沼の震災当時の写真展示や記録映像を見ることがになる。大型スクリーンに映し出される十三分間の記録映像は、冒頭に「気分がすぐれなくなった場合は近くのスタッフにお声掛けください」とテロップで注意喚起するほど、気仙沼の街を飲み込む津波の脅威を衝撃的に伝えている。その後、展示室Aを通り、いよいよ震災遺構である気仙沼向洋高校の旧校舎へと足を踏み入れる。

震災遺構として保存されているのは南校舎、北校舎、総合実習棟、生徒会館、屋内運動場だが、内部を見学できるのは南校舎の一・三・四階と屋上、北校舎の一階で、あとは外部のみを公開している。被害が大きかった海側の南校舎の各教室にはガラス窓がなく、天井は鉄骨がむき出しになり、床には泥にまみれた備品や教材などが散乱している。地上八mにある三階の教室には、さまざまな漂着物の中に窓を突き破って入ってきた車が仰向けになって



伝承館にほど近い岩井崎海岸の防潮堤

おり、ここが教室だったとは思えないほどの惨状は、あの日から時間が止まってしまったようだ。四階に残されたレターケースは下部が二五cmまで錆びており、十二mの高さまで津波が到達したことを示す。

屋上に上ると、五つの机が雑然と展示されている。震災当日、重要書類を保護するために残っていた教職員二〇名と北校舎の改修工事を行っていた工事関係者二五名が共に屋上へと逃げた。これらの机は「少しでも高いところへ」と考えて行動した証を再現したものだ。学校にいた約一七〇名の生徒はすでに全員避難して無事だったが、幸い彼らも、翌朝流れ着いたボートを引き寄せ、



屋根や床板が流され無残な姿の屋内運動場



冷凍工場が激突して半円形に削られた南校舎



北校舎には震災前の学校生活の写真が飾られている



南校舎3階には漂着した車が仰向けのまま残されている

全員無事に脱出できたということだ。

その後、残骸が片付けられた北校舎に移動すると、廊下の鉄柵には、授業風景や休み時間の団らんなど震災前の学校生活のスナップ写真が飾られている。生徒たちの屈託のない笑顔にほっとすると同時に、平穏な日常がいかに貴重かを改めて考えさせられる。そして震災伝承館へと戻り、救助活動や行方不明者の捜索、避難所や応急仮設住宅の様子などの写真展示を見学し、被災者の想いや命の大切さを伝える映像を視聴して約六〇分〜九〇分の見学コースは終了となる。



「気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館」の来館者は、コロナ禍で二か月近く休館したが、昨年九月に一〇万人を突破した。予想を上回る来館者数だそうだが、それは何より、延床面積約一万㎡の例のない規模の震災遺構をありのままの姿で保存し、警鐘を鳴らし続ける「目に見える証」として津波の真実を伝えているからに他ならない。ただ、窓ガラスのない教室には雨や風、雪も吹き込む。屋根や床板が流された屋内運動場は草に覆われ、総合実習棟

前のがれきや折り重なった車も腐食が進んでいく。この点を佐藤克美館長にお聞きすると、「被災物にはスタッフも手を触れませんので、確実に風化は進んでいきます。時を置いて再び訪れたなら印象も違って見えるでしょう。皆さんにはその時々を写真に記録していただき、震災の記憶や教訓は風化させることなく将来に伝えていってほしい」と話した。

東日本大震災から一〇年となる中、あの日を忘れることなく、命を守るために何が必要なのか。災害の脅威を学び、自分で考えることの大切さを教えてくれる施設であった。

●施設案内

所在地：宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1

開館時間：4～9月 9:30～17:00  
10～3月 9:30～16:00

休館日：毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始

入館料：一般600円、高校生400円、  
小・中学生300円

アクセス：JR気仙沼線（BRT）陸前階上駅から徒歩20分

※団体向け体験プログラムとして「語り部ガイド」「防災セミナー」「ふりかえりワークショップ」が利用できる（要予約）。